※開催概要について
　この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではないことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト
沼津駅周辺地区第２回勉強会
開催概要

２月２日（土)、沼津駅周辺地区にて第２回勉強会が開催されました。25 名が参加した他、PI プロジェクトを監視・評価する PI 委員会から委員２名が出席しました。

冒頭、会議の運営がファシリテーターに一任された後、勉強会の進め方に関する前回挙げられた質問について PI 運営事務局から回答がありました。勉強会開催のスケジュールが当初より延長されること、参加者から資料を提供できること、また、勉強会では予断ない検討が期待されていること等が改めて確認されました。

続いて、グループ検討の前半では、沼津駅周辺地区の地域づくりの目標に関して主に、前回討議時間の足りなかった「交通」と「防災」の観点からの意見交換が行われました。「交通」については、沼津駅南北の自動車・歩行者・自転車交通の課題解決が必要であることの他、魅力的で賑わいを生む道路空間や交通弱者にも便利な公共交通の活性化などについて意見がありました。また、駅前には、アクセスしやすい、人が集まりやすい施設や空間が必要といった意見もありました。「防災」については、駅の南北市街地において津波に対する危機感や対策にギャップがあることが心配、避難のための施設・空間が必要などの意見がありました。

後半では、広域的な「拠点」「交流」や、対策の「戦略」「財政と事業効果」の観点から議論が行われました。沼津市は、商業の面では既に県東部地域の「拠点」ではないし、交通やモノの「交流」の中核機能は郊外に移っているのでは？という現状認識についての議論があり、今後は、より広い文化圏を視野に入れつつ、文化・教育や自然環境、新たな産業活性化を図り拠点性を持とうという展望が語られました。「戦略」については、地域づくりの目標を明確にし、実現に向けた最善策を客観的かつ迅速に判断してほしい、その際には長期的な経済状況予測に基づくことも重要という意見がありました。また、県が調整役として積極的に介入して、民間と行政の協力体制を求める提案がありました。

「財政と事業効果」については、市の財政状況は現状でも不安があり、どのような計画であっても、市の負担額が明確に示されること、民間からの大きな投資が生まれる可能性がある計画であることが大切だといった意見がありました。

また、PI プロジェクトの進め方についても改めて議論があり、沼津市や JR との意見交換の場を求める声、インターネット等を活用して様々な立場からのより幅広い市民との議論を期待する声がありました。

最後に、PI 委員から、「勉強会は、沼津市をよりよくするという共通の思いのもと様々な意見の共通点を見つける意義がある。悲観的な意見を出すのではなく長所を伸ばすための議論に期待したい」という参加者に向けた要望と、「若い世代や女性からの視点も取り入れて検討を進めるべき」という PI 運営事務局に向けた要望がありました。

次回（３月２日（土)）は、これまでの議論のまとめと、地域づくりの目標をどう達成していくか、ステップ３に関わる議論が始まる予定です。

※グループ討議の概要について
　この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではないことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架ＰＩプロジェクト　勉強会（沼津駅周辺地区）第２回
グループ検討の概要【Ａグループ】

第１回に続き、地域づくりの目標について話し合い、概ね皆さんのご意見として、大きく以下の５点が出されました。

1. 「交通」については、「移動しやすいまち」にすることで、人がまちにでて「賑わい」が生まれ、また、まちに人が「住む」ことで「賑わい」が生まれるのではないか。
2. 「歩いての移動」については、「移動できる」ことと「ひと休みできる」ことをセットで、「自転車での移動」については、「移動できる」ことと「駐輪できる」ことをセットで目標として掲げておく必要があるのではないか。
3. 「災害時の避難」については、避難場所が少ない現状から、「地震・津波」については民間施設の活用、「火災」については広い公園の新設などを掲げてはどうか。
4. 「財政と事業効果」について、「沼津駅周辺が市民にとって利用しやすく暮らしやすくなること」は共通の思いである。「それを実現するために何に費用を使うか、どのようにすると効果がでるのか」については、状況を明らかにしながら検討を進められるとよい。
5. 「広域の拠点」「広域アクセス」については、沼津駅周辺に全ての機能を集中するのではなく、周辺市町、特に三島との住み分けが必要ではないか。

上記の点を話し合う中で、以下のような意見を共有しました。

「移動する」「住む」ことがまちの「賑わい」につながることについては、「市民がもっと駅周辺地区やその周辺に住める環境をつくり、中心部に歩いていけるようにする」「子どもたちが過しやすいまちであれば、家族で行ける。家族で行けば、そこで遊んだり、食べたりとする。それが賑わいになる。」との意見を頂きました。

「自転車での移動」については、「利用しやすい環境をつくる（ハード整備）と同時に、利用のルールづくり、マナーの向上（ソフト施策）もあわせて進めることが大切」「自転車を利用しやすい環境をつくる中で、駅の役割として、通勤、通学はもちろん駅利用者が気軽に使えるような駐輪環境を駅前や駅に整える必要がある」「自転車と同様に、バイクの駐輪環境も駅前や駅に必要である」との意見を頂きました。

「広域的な拠点」については、「周辺の市町との役割分担を考える中で、とくに三島とは、相互補完できるような施策が必要である。」との意見を頂きました。

「広域連携」「広域からのアクセス」については、「沼津と三島との連携を生かすには、まず、そこをつなぐ道路整備が急務である。電車ではすぐだが、車で行くと非常に時間がかかるのが現状である」との意見を頂きました。

「財政と事業効果」については、「高架化よりも実際に動いている区画整理事業に期待している」「高架化事業と区画整理事業が総合整備事業として一体で動いているが、選択肢として、切り離して考えることも検討できたらよいのではないか」との意見を頂きました。

以上、第２回は、「交通」「防災」「広域」を中心に、地域づくりの目標を確認しながら話し合いました。

※グループ討議の概要について
　この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではないことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架ＰＩプロジェクト　勉強会（沼津駅周辺地区）第２回
グループ検討の概要【Ｂグループ】

B グループでは広域レベルの地域づくりの目標と進め方に関する課題の整理についての意見を出し合った後、残った時間で沼津駅前のエリアについて自由に意見交換をしました。

広域レベルの地域づくりの目標では『拠点』への意見が多く、「箱根や伊豆までを含めた、昔からの文化圏、経済圏に基づいて広域を捉える」「県東部と伊豆地域を一体的に捉え、全体のグランドデザインを考える視点が必要だ」といった、静岡県東部よりももっと広い範囲で広域を捉えるという意見が出されました。一方で、「実際に物事を動かしていくためには漠然とした絵を描いているだけではなく、1 店舗、1 企業のレベルから何をすべきかを考えることも重要」という考え方も出されています。

また、歴史的、地勢的、文化的にポテンシャルはあるのだがそれを磨いてこなかったために、沼津市は既に拠点性を失ってしまっているのだから、「事実は受けとめた上で拠点性をもう一度取り戻すことを考え」、「三島や富士と同じようなことをするのではなく、他にない開発をするという視点」が必要だという意見が多く出されています。「周辺市町との役割分担の中で沼津はどうあるべきかが見える」と考えると、地域との連携においては「市町村の枠を超えて施設投資などを行うのが良い」という意見もありました。

『交流』では、「新東名のサービスエリアと地域との関係を密にして、周辺の町との交流や経済の活性化を図る視点が必要」という意見があるのと同時に、「サービスエリアの活況は一時的なもの。それだけに頼るのではなく市内に交通の要衝を点在させて作る」ことが大切だという意見が出ています。また、本来はサービスエリアと同時にスマートインターチェンジ化を図るべきだったにも関わらずタイミングを逃してしまったことに触れ、「タイミングの重要性を意識すべき」という発言もありました。また、「公共交通政策、道路を道路網として考えて整備するという戦略的な視点に欠けている」ことが指摘されています。

『戦略』では、「鉄道の線路がベルリンの壁の様に南北を隔てているのが最も大きな問題であり、南北の歩行者交通の確保のために、すぐに効果のある対策を考える必要がある」「既存の跨線橋を南北自由通路とするのは、抜本的な対策にならなくても、きっかけにはなるのでは」という意見がありました。「市民と民間と行政が協力する際の行政とは市だけではなく、県が調整役として積極的に介入する」必要性も指摘されています。

『財政と事業効果』については、文化施設への予算が削られている現状等に触れ、「既に市の財政には無理が生じているように感じられるので細かいところまで予算が行き渡るようにしてほしい」という意見や、「投資の必要性や費用対効果だけでなく、誰が投資すべきか、民間なのか行政が税金を使ってやるべきことなのかを見極めることも大切だ」という意見がありました。

『進め方に関する課題』では、「市の参加が必要ではないか」「勉強会での議論が反映されるためには JR にも参加してもらい考えを聞きたい」との意見が重ねて出されています。「異なる意見を持つ人が互いの意見を言い合うことで方向性が見えてくるのでこういう場は重要だ」と勉強会を評価すると共に、この様な機会をもっと広く市民に広げるためには、「一方的に情報発信するだけでなく、双方向のコミュニケーションツールとして SNS などを活用するのが良い」という提案がありました。

※グループ討議の概要について
　この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではないことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架ＰＩプロジェクト　勉強会（沼津駅周辺地区）第２回
グループ検討の概要【Ｃグループ】

第２回目は、前回の議論の振り返りとして「人が集まりたくなる、歩きたくなるような魅力的なまちづくりが大事」ということが確認されました。

沼津駅周辺地区の「交通」については、歩いて楽しいまちなかにするために歩行者優先でにぎわいを生むような道づくり、バリアフリー化、自転車道の確保があげられました。また、南北交通の渋滞の早期解決や車いすでも安全に通行できること、バスの利用が減少していることが課題としてあげられました。

「防災」については、特に駅の北側が津波対策の意識が薄く、南北一体的な取り組みの必要性が指摘されました。

広域的な視点からは、「拠点」「交流」にかかわる目標については、「沼津はすでに交通の結節点でなく商業も郊外型に移っているので、発想の転換が必要では。目指すならば、行政や文化の拠点を」「豊かな自然と都市機能が融合する魅力あるまちをつくり、文化、教育で人を集めるのがよい」「文化やスポーツ施設、特色ある公園、エンターテイメントの発信などを進めたい」「観光的には、三島と一体的な拠点として、伊豆、箱根との連携を」などの提案がありました。

「戦略」については、まず、「まちづくりの方向をひとつに絞り込むことが重要で、その上で、客観的な視点でかつ迅速な判断をしてほしい」ということが確認されました。さらに、「高架化ありきでなく、どうしたら早期に活性化の効果がでるのか、南北分断が解消されるのかという視点で考えるべき」「１５年もまちが工事中であることはデメリットが大きいのでは」という意見や、「今の事業計画を活かしてより効果の上がることを考え、沼津への民間投資を引き出す視点を持ちたい」という提案がありました。

「財政と事業効果」については、「市の財政見通しは右肩上がりの予測に基づいているが、甘いのではないか」「実際は耐震面を考慮すると事業費はもっと膨らむのではないか」など懸念や疑問が多く出されました。それに対し、「失敗することばかり考えないで、投資を上回る効果をあげるという発想も大事ではないか。間接投資も含めて、大きな効果を生む可能性のある事業にすべき」という意見や、今後のステップでの検討事項として、「それぞれの代替案を選択した場合のコストや手続的なリスク、国からの補助金額の違いなどを比較したい」といった意見が出されました。

以上のように沼津駅周辺地区や広域的な視点から地域づくりの目標を議論した後、沼津駅前に求められる役割についても意見交換をしました。「これまでは大型商業施設が求められたが、今はそれでは人集めできないと思う」「文化、スポーツ施設、医療施設で人を集めて、回遊するような魅力をつくり、そこに商業もあるといい」「駅前に、緑の公園やイベントのできる広場があり、いろいろな企画で盛り上げれば、買い物客も、観光客もよろこぶ。そのようなソフトを育むハードの整備が重要だ」「駅を利用する学生や高齢者、観光客などをターゲットに考えて使いやすい駅、魅力的な駅に。バスなどを利用しやすくし、駅の利用を高める施策も必要では」「商店街の活性化については、これから高齢化などでますます車で来る人が増えると思われるので無料駐車場があるなど、駅にアクセスしやすくできるといい」などの意見が出されました。